

新地町の復旧・復興状況

新地町の主な復興事業の進捗状況を写真で紹介しています。

2017年6月 更新

昨年12月、5年9ヶ月ぶりに常磐線が再開通し、新地駅前には次々と住宅が建ち始め街に賑わいが出てきました。



常磐線の不通区間が再開通し、通勤通学の利便性が戻り、来訪者の増加が期待されます。先に全区間が開通した高速道路も、新地町内区間で約12,000台／日の通行量と徐々に増えています。



鹿狼山は手軽に登れる山として人気があり、高速道路や常磐線の再開通で登山者がさらに増えています。中には、新地駅で電車を下りて数キロ以上を鹿狼山まで歩いて登山し、下山後も各所をめぐって新地を一日ゆっくり楽しむ登山者も増えています。



← 新地駅周辺の土地区画整理事業「23.7ha」は、造成工事が終わり以前の地区住人や、新たに分譲地を購入した方の住宅建築が進み、新しい街に賑わいが出てきました。また、駅周辺にはクリニックを建築中で、今後、温浴施設やホテル、町の多目的ホール等の建設が計画されています。

しんちまち

新地町の名産・名所

	震災前	現在
人口	8,387人	8,256人
世帯数	2,654世帯	2,793世帯
面積	46.53 km ²	

平成29年は5月1日の現住人口

福島県浜通り地方
最北端のコンパクトな町



【カレイ】



【コウナゴ】



【ニラ】



【いちじく愛す】



【スイートマシェリ】



【清酒 鹿狼山】

【鹿狼山 年間来訪者4万人】



【花木山ガーデン】
標高140mからの絶景

町の空間線量

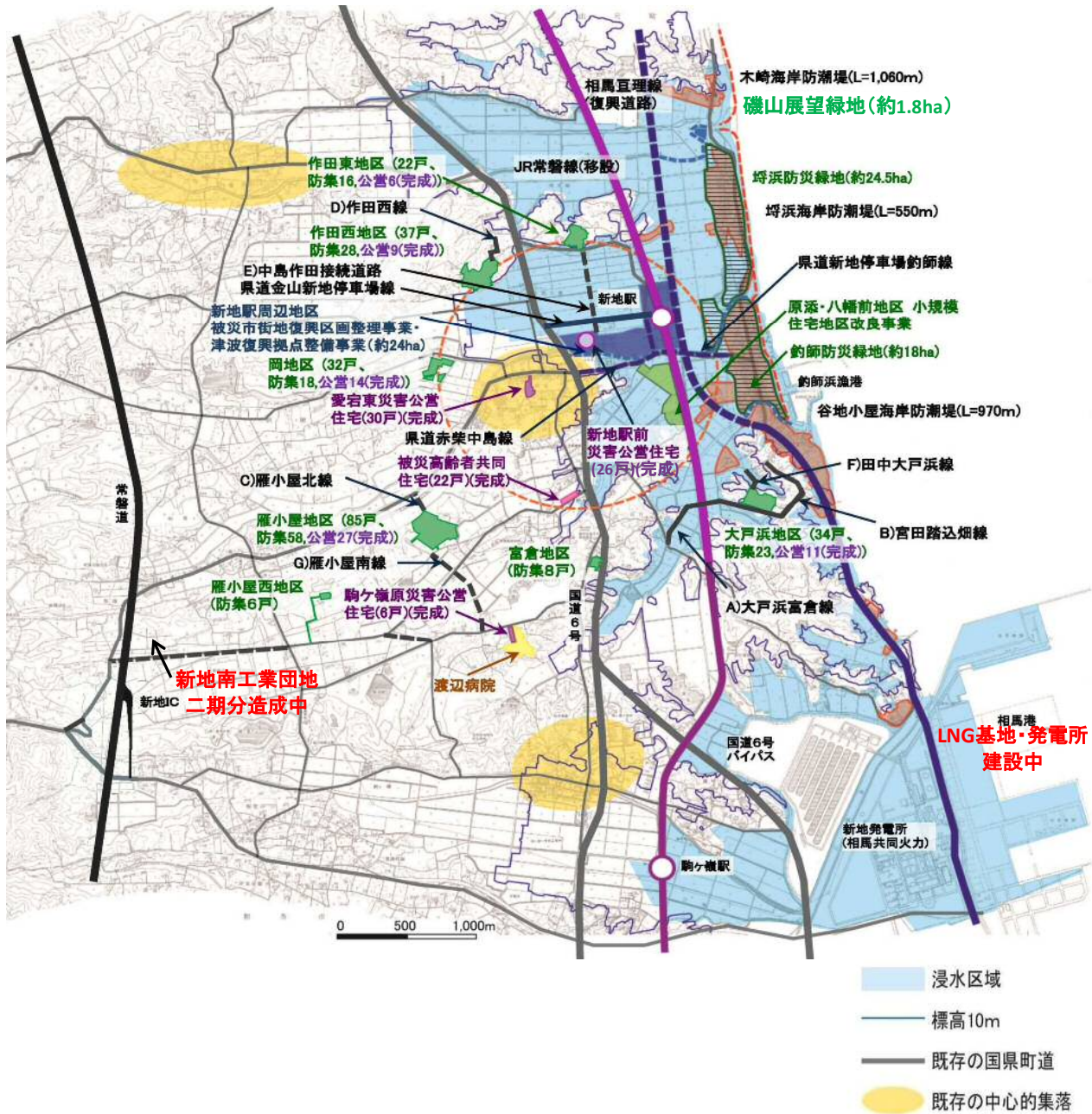
2017年5月の町内空間線量
0.04～0.18 μ Sv/h(最低値と最大値)



鹿狼山登山口駐車場の空間線量

平成24年1月	平成29年5月
0.36 μ Sv/h	0.16 μ Sv/h

新地町 主な復興事業箇所図



浜通りの最北端の町



凡 例

- ① 防災集団移転促進事業 移転団地
- ② 区画整理・津波復興拠点整備事業
- ③ 公営住宅
- ④ 被災高齢者共同住宅
- ⑤ 小規模住宅地区改良事業
- ⑥ 県道整備
- ⑦ 町道整備
- ⑧ JR常磐線移設
- ⑨ 河川
- ⑩ 防災緑地
- ⑪ 海岸防潮堤
- 災害危険区域

- 浸水区域
- 標高10m
- 既存の国県町道
- 既存の中心的集落

—新地町の復旧・復興状況—

震災から6年3ヶ月となる「平成29年6月中旬」の復旧・復興事業の進捗状況

1. 防災集団移転	高台等に整備された7箇所の新団地154区画は(空き3区画を除く)、全て建築が完了し住宅再建が大きく進みました。
2. 災害公営住宅	愛宕東、駒ヶ嶺原、大戸浜、岡、雁小屋、作田東、作田西、中島(新地駅前)と全ての団地が完成し入居済みです。仮設住宅は2つの団地に集約され、残りは撤去されました。(がんごや仮設住宅には町外の被災者が今も入居しています)
3. 被災高齢者共同住宅	台湾赤十字社の支援で、老夫婦や一人暮らしの高齢者を対象に、小川地区に22戸の集合住宅を整備しました。(H25/11月から入居)
4. 区画整理	新地駅周辺の旧中島地区「23.7ha」を、約4メートル盛土して新しい街が完成。元住民の住宅再建や、新たに分譲地を購入した方の住宅建築が進み、街に賑わいが出てきました。また、防災センター(兼)消防署やLNG社員寮も完成し、駅周辺ではクリニックを建築中で、温浴施設、ホテル、交流センター等の建設も始まります。
5. 防災緑地	釣師防災緑地(約18ha):堤防背後に盛土を施行中で「どんぐり」を育成中。県内初ラウンドアバウト交差点も整備中です。(町事業) 埴浜防災緑地(約24.5ha):盛土工事はほぼ終わり、植栽工事が本格化します。また、磯山展望緑地も整備中(県事業)
6. 道路	(復興道路) 町道:避難道路整備が終わり既に供用を開始。新団地と主要施設を結ぶ新路線「雁小屋線」も整備中です。 県道:相馬亘理線はバイパス工事が進んでいます。金山新地停車場線も6号国道から新地駅前直行ルートに変わりました。 (災害復旧) 町道:17路線全ての復旧が完了しました。 県道:金山新地停車場線作田地内が完了し、浜街道「38号線」も工事が進んでいます。
7. 河川	(改修事業) 砂子田川:新地駅周辺区画整理事業と一体で、河川拡幅や橋梁掛け替えが進められています。(県事業) 地蔵川:河口付近橋梁と堤防を高くするのに合わせ、ルート変更、護岸、新しい橋梁工事が進んでいます。(県事業) (災害復旧) 濁川、三滝川、埴川:河川堤防の嵩上げ工事がほぼ完了しました。(県事業)
8. 海岸	防潮堤:以前より1m高い「TP7.2m」に嵩上げする工事がほぼ終わりました。(県事業)
9. 農業	農地復旧:復旧予定農地の8割弱で復旧が終わり、残る旧・常磐線東側等もH30年3月まで完了予定です。 排水機場・水路:6箇所の排水機場が復旧し稼働(県事業)。壊れたり沈下した排水路も各所で復旧中です。
10. 漁業	釣師浜漁港は、沈下岸壁の嵩上げ、漁具倉庫の再建が終わり荷さばき所を建築中。漁港南部には民間の水産加工施設が完成して稼働。原発事故に伴う漁獲制限は、6/15現在安全性が確認している魚種が180種と増えました。
11. JR常磐線	昨年12月10日に、不通となっていた「浜吉田～相馬間」が5年9ヶ月ぶりに再開通しました。

住まいの再建（1） 防災集団移転促進事業（7団地）、小規模住宅地区改良事業（小川原添地区）



作田東団地（防集16区画、町営住宅6戸）



作田西団地（防集28区画、町営住宅9戸）



岡団地（防集18区画、町営住宅14戸）



雁小屋団地（防集58区画、町営住宅27戸）



大戸浜団地（防集23区画、町営住宅11戸）



富倉団地（防集8区画）



雁小屋西団地（防集6区画）



小川原添地区は災害危険区域に指定せず、全壊した住宅を撤去して緑地に整備

小規模住宅地区改良事業(小川原添地区)

集団移転団地は、町の中心から概ね「1.5km」の範囲に、7団地157区画整備しました。分譲済全区画が入居済みで、空き「2区画」は購入者募集中です。

新地町の復旧・復興状況

町営住宅は現在募集中です。詳しくは町ホームページをご覧ください → <http://www.shinchi-town.jp/site/fukkou/jyutakukakari-nyukyo.html>

住まいの再建（2） 災害公営住宅（8団地-129戸）、被災高齢者共同住宅（台湾からの支援で22世帯整備）



鉄筋コンクリート造、UR都市再生機構に整備を委託

愛宕東町営住宅(30戸)



作田東町営住宅(6戸)



作田西町営住宅(9戸)



雁小屋町営住宅(27戸)



渡辺病院の隣です

駒ヶ嶺原町営住宅(6戸)



岡町営住宅(14戸)



大戸浜町営住宅(11戸)



間取りは26戸すべて異なります

中島町営住宅(26戸)



災害町営住宅は、防集団地5地区他3地区に129戸整備しました。また、被災した高齢者のため、台湾赤十字社の支援で22世帯の共同住宅を小川地区に整備しました。

新地町の復旧・復興状況

新地駅周辺土地区画整理事業（JR常磐線復旧）、防潮堤・防災緑地整備事業



土地区画整理事業完了時イメージ



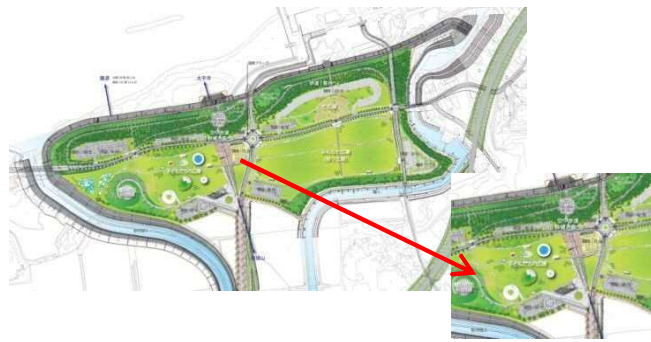
駅周辺では、クリニックを建築中、温浴施設、ホテル等の建築も始まります。
駅東西に100台以上の駐車場を整備します。



区画整理：駅前駐車場と、奥はLNG社員寮



防潮堤、釣師浜漁港内公園の整備も完了



緑地：釣師緑地完成イメージ



2015年3月のどんぐり植樹祭



緑地：松、どんぐりを育てている釣師緑地



緑地：県境近くの磯山展望緑地

新地駅周辺では住宅の他にクリニックを建築中で8月開業。駅北側では温泉を掘削中で、温浴・宿泊施設、多目的ホールが順次建築されます。防潮堤はほぼ完成し背後の緑地には町内外の方の協力で「どんぐり」等を植えて育てています。

道路、農林水産業（釣師浜漁港、排水機場、農地）河川の復旧



踏切を無くし立体交差に

町道：大戸浜富倉線の「大富希望の橋」



沈下した岸壁は復旧されました（釣師浜漁港）



農地復旧：ガレキ撤去後作付けされた畑



互理方面

県道：釣師に、県内初信号の無い交差点、ラウンドアバウト



完成した水産加工施設（大戸浜地内）



今までの倍に拡幅された砂子田川

河川：常磐線、相馬互理線交差部付近砂子田川



総合公園方面へのアクセスが向上する雁小屋線（小川からグランド方面を見る）

町道：防集新団地と町拠点施設等を結ぶ



排水機場も復旧完了（写真は埼玉）

沿岸部から内陸への新設道路は、震災の教訓から「踏み切り」の無い避難路として整備しました。釣師浜漁港は岸壁嵩上げ、漁具倉庫整備が終わり、荷さばき所を建築中です。漁港南部には、地元で採れた魚を加工しスーパー等に卸す「水産加工施設」が完成しました。

新地町の復旧・復興状況

大規模プロジェクト、若者定住促進住宅、町外からの移住者による町の人口増



相馬港(町内)に建設中のLNG基地



インター内に高速バスストップを整備中

新地インターとインター内の状況



福田地区に整備した若者向け定住促進住宅は、全12世帯が入居しています

福田若者定住促進住宅---12戸



地区世帯の増加は集会所が狭くなる等新たな課題も出ています

町外の移住者の多い「岡地区」



震災後に町内に建築されたアパートは30数棟200世帯を超え、主にLNG関連事業の社員が町外から入居し、少子化の状況下でも人口が増えています。

震災後、多くの町外被災者が町内に住宅を再建し、その数は約150世帯を超えます。新地の岡地区、駒ヶ嶺の原地区は特に多い地区です。また、新地駅周辺土地区画整理事業でも、町や民間の分譲地があり、新たな人口増につながっています。それに加えて、福田地区には若者定住促進住宅を建設しました。



町最初の仮設住宅(平成23年4月・陸上競技場)



仮設住宅は撤去され陸上競技場に再整備

町民の住まい再建が大きく進んだことにより、徐々に町が本来の姿へと戻ってきました。元陸上競技場の仮設住宅も役目を終わり撤去・再整備され、去る6月13日に行われた相馬・新地の小学陸上競技大会でこけら落としされました。